

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3671200255		
法人名	有限会社 敬友会		
事業所名	グループホーム花乃苑石井		
所在地	徳島県名西郡石井町藍畑字東覚円70-3		
自己評価作成日	平成30年12月11日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	平成31年1月22日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

玄関先から苑内まで太陽の光を存分に取り入れ施設に入った瞬間に明るさと温もりを感じて頂けるような造りになっています。広々とした中庭には桜やコスモスなど居室からでも眺められるようになっています。野菜作りも入居様や、家族の方々と協力して行い収穫した野菜を皆さまに召し上がって頂いています。職員ひとりひとりが利用者様の思いや願いをできる限り理解、尊重し日々のケアを心掛けています。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、静かな田園地帯に位置しており、木造平屋建ての内部は、明るく清潔で、利用者が気持ちよく過ごせるよう工夫している。広い敷地には中庭があり、季節ごとに花を咲かせる草木が植えられ、利用者が季節の移り変わりを楽しめるよう整備している。職員は利用者が毎日笑顔で過ごせることを目標に、利用者の特徴や思いを理解することに努めている。職員一人ひとりが、毎日のケアを振り返り、気付きや意見を記録して、職員間で話し合いを持つことで、つねにより良いサービスを目指している。食事は、利用者の好みや希望を取り入れて職員が調理しており、家庭的で季節感のある献立を考え、食事を楽しめるよう工夫している。協力医療機関との連携が良好で、定期的な往診や緊急時の協力体制が確保されている。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			さくら 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の朝礼で、理念を読み上げるようにしている。苑内の目の付く場所に掲示し、職員全員が同じ方向に向かいケアに携わっている。	事業所では、職員間で話しあいを持ち、地域密着型サービスの意義を踏まえた独自の理念を作成している。職員はつねに理念に立ち戻り、実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	避難訓練やお祭りの際には地域の方々がたくさん来てくださる。また地元の小学生や園児の訪問交流がある。	事業所には、定期的にボランティアの訪問があり、踊りや楽器の演奏、手話などを通じて、様々な交流の機会をもっている。地域の小学生や保育園児の訪問は、利用者の大きな楽しみとなっている。事業所の「苑祭り」や災害訓練の際には、多くの地域住民の参加がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等でケアの実践をしてみることもある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議で頂いた意見をまとめ、職員間で回覧し、必要であれば会議を行いサービス向上に努めている。	2か月に1回、運営推進会議を開催し、事業所の現状や取り組みについて報告し、出席者との相互の意見交換が行われている。会議の内容は、全職員に伝えられ、出された課題や提案については、職員間で話しあい、サービス面に反映させている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や相談がある時に関わって頂いている。問題があれば解決に向けて一緒に取り組んでいる。	管理者は、町担当者を訪問し、関係づくりに努めている。また、運営推進会議や「苑祭り」、防災訓練などに、町担当者や地域包括支援センター職員の参加があり、相談をしたり、アドバイスをもらったりして、友好な関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会を実施している。拘束をしない為に何をどうすべきかを常に考える。また、拘束をしないことで起こりうるリスクを家族様と十分に話し合い理解を頂くようにしている。	職員は、身体拘束に関する勉強会に参加している。拘束による弊害について職員間で話しあい、利用者の自由な暮らしを支援している。安全確保のために車いす用のベルトを使用する際は、必ず利用者家族と話しあい、同意書を作成している。	職員間で、つねに利用者の状態を確認し、ベルト着用の必要性について意見交換を行いながら、少しの時間でもベルトを取りはずすなどの検討を期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を実施している。事業所内で虐待が起らないように注意をはらい防止に努める。ストレスを溜め込まないように指導している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			さくら 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を実施している。セミナー等の参加も声を掛けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族様と十分に話し合い理解、納得をして頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様や家族様が気軽に意見を言えるような環境づくりを心掛けている。	事業所では、家族の来訪時には職員から声をかけ、気軽に話しあえる関係を築いている。毎月、利用者の暮らしぶりや健康状態を記録したお便りを家族に送付し、意見を伝えてもらえるきっかけづくりをしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	積極的に意見、提案ができるような環境づくりを心掛けている。	管理者と職員は、自由に話しあえる関係を築いている。出された意見や提案は、全職員で検討を重ね、運営面に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員ひとりひとりに目標を持ってもらい、達成する事の喜びやそれまでの過程を十分評価し、向上心をもって働いて頂くようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	苑内、外の研修の参加の充実と、資格取得に向けての支援をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の施設を見学させて頂き、良いところを吸収し、サービスの質向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			さくら 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様、家族様と十分に話をし、思いや、不安を理解し少しでも早く信頼関係を築き安心して過ごして頂けるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様が体験してきた苦労を理解し、困っている事はないか、ニーズは何なのかを傾聴するようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	可能であれば、サービス開始前に本人様に会いに行き話をする機会を作ったり、要望を聞くようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の事をよく理解し、尊重し関わっていくようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には、利用者様の状況を伝えるようにし、定期的な便りや連絡は欠かさず行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人には面会に来て頂いたり、馴染みの場所にドライブを兼ねてお連れするようにしている。手紙や電話の支援も行っている。	職員は、知人の訪問や知人に対する手紙・電話でのやりとりを積極的に支援し、馴染みの関係が途切れてしまわないよう配慮している。利用者の一時帰宅や趣味で利用していた場所に出かけるなど、人や場との関係継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	関係性を把握しトラブルを未然に防ぎ、楽しく生活ができるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			さくら 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居されてからも手紙や電話を頂けたり、来苑して頂いたりして近況を聞けたりしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の気付きを大切に、職員間で情報の共有に努めている。	職員は、日頃の利用者との会話の中から思いや意向を把握し、毎日“気づきノート”に記録している。把握した内容は、職員間で共有し、本人の意向にそえるよう検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様や家族様から情報をいただき、生活歴や馴染みの暮らし方等を把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の気付きを職員間で共有しケアを行う。また利用者様の現状の把握に努めるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃の関わりの中で気付いた事、意見、希望を計画に反映している。必要であれば随時ケースカンファレンスを行うようにしている。	職員は、利用者との関わりの中で気づいたことや意見をもとに、カンファレンスを実施し、介護計画書を作成している。月に1度、モニタリングを行い、利用者の心身の状態の変化に応じて検討し、計画に反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のファイルを用意し、記入するようにしている。毎日の気付きをファイルするようにし、職員間で共有するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	リハビリを必要としている方には施術師に相談し、福祉用具が必要な方には専門の方に相談にのっていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			さくら 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	周辺の情報などは地域の民生委員の方々から教えて頂く事が多い。こちらからも地域の行事にできるだけ参加するようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	馴染みの医師がおられる方は継続した医療が受けられるようにしている。また往診医は24時間の連携体制が取れている。	事業所では、本人や家族と話しあい、協力医療機関の受診を支援している。定期的に協力医療機関からの往診があり、24時間の連携体制が構築されている。本人や家族の希望がある場合は、かかりつけ医の受診を支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調変化の早期発見に努め異常があれば速やかに担当医に報告相談し適切な治療が受けられるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	関係者や家族様と密に相談し情報交換しながらスムーズに安心して入退院できるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人様や家族様と十分に話し合い、対応できる最大限のケアについて説明し、担当医や協力してくれる病院等も踏まえて、安心して頂けるように努めていく。	事業所では、契約時に、重度化や終末期に事業所のできることを説明し、本人や家族と話しあい、ケアの方針を決めている。利用者の心身状態の変化に応じて、そのつど家族の意向を確認し、医療機関も含めて対応を検討している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応、事故発生後の対応マニュアルを作成し周知徹底している。また救命講習にも参加するようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の火災避難訓練と、年1回の水害訓練を実施している。春の訓練には地域の方々にも参加して頂いている。	事業所では、年3回、火災避難訓練や水害訓練を行っている。消防署の指導のもと、地域住民や職員、利用者、市関係者の参加を得て、地域との協力体制づくりに努めている。非常時の連絡網や災害時用の備蓄を完備している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			さくら 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格やプライバシーに配慮した声掛けを心掛け、実践できているか職員間で確認するようにしている。	職員は、日頃の利用者とのかかわりにおいて、声かけや接し方に配慮し、本人の誇りやプライバシーを損なわないよう支援している。職員間で勉強会を行い、学んだ内容を確認しあっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	些細な出来事や、表情の変化を見逃さないように心掛けている。表現が難しい方は選択できるようなアプローチで反応をみるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課はあるが、無理強いせずペースに合わせた対応をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧を楽しんだり、洋服を自由に着て楽しまれたりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立や、行事食を一緒に考えたり、季節を感じて頂けるような食材を提供するようにしている。	職員は、利用者の希望や好みを取り入れた献立を考えて、豊富な食材を使った食事を提供している。食事が楽しくなるように、事業所の庭で育てた野菜を使うこともある。行事食やおやつ作りも楽しみの一つとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量を記録し管理している。その方に合った食事形態での提供、食器の検討をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施している。口腔ケア用品やインジンを使用している方もいらっしゃる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			さくら 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、できるだけトイレで自立した排泄を支援している。	職員は、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握している。声かけやトイレ誘導を行い、トイレでの排泄の自立に向けた支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日常の運動機会の確保や、食事、水分量にも注意している。必要であれば担当医に相談する。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	決められた日課はあるが、体調や希望に合わせてその都度対応している。柚湯、菖蒲湯を楽しんでいただく。介助はできるだけ同姓介助で実施している。	事業所では、週2～3回の入浴を基本とし、利用者の希望に合わせて入浴できるよう支援している。同性介助に配慮したり、季節ごとの柚子湯や菖蒲湯を取り入れたりして、利用者がゆったりと楽しんで入浴できるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状況に応じて休んで頂いている。歌やテレビをつけて眠られる習慣のある方は他者に迷惑にならない程度でお願いし、電気をつけて眠られる方には、眠られてから職員が消灯するようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	担当医の説明や、薬剤師からの情報をファイルし全員が把握できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯たたみや、花、野菜のお世話等日々の生活にやりがいを感じて頂いている。好きなカラオケをおこなったり、手芸を楽しまれている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は散歩に出かけたり、買い物に行ったりし、外出支援を心掛けている。家族様の行事には必要であれば送迎し参加して頂いている。	事業所では、気候のよい時期には、事業所周辺を散歩したり、庭で外気浴をしたりして、気分転換を図っている。外出支援として花見やひな祭り見学、近くの大型スーパーへの買い物などにも出かけている。利用者の誕生日には外食をしたり、法事に出かけたりなど、利用者一人ひとりの希望にそった外出も支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			さくら 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は基本的には預かっているが、手元に金銭が無いと不安な方には家族様と相談し、本人に持って頂いている。外出時に必要であれば使用している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話や手紙支援を行っている。判断が難しい方は家族様に相談している。集中見舞いや年賀状を作成している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合った環境づくりをして楽しんで頂く。光をたくさん取りこんで明るい共有空間を作っている。静かな場所が好まれる方は落ち着いた環境で過ごせるように支援している。	共用の場所は明るく清潔に保たれ、玄関や廊下の各所には、観葉植物や花が飾られている。リビングは、光や室温、湿度を快適に保ち、ゆったりとくつろげる空間となっている。広々とした中庭や事業所の周辺に植えられた木々をリビングから眺めることができ、自然と季節感を満喫できるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	本人の好きな場所に自由にいけるようにしている。テーブルを囲んで談笑されたり、一人でソファでテレビを見て過ごされたりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使いた家具や物を危険のない程度で使用していただくようにしている。写真を飾ったり、仏間を作られている方もいらっしゃる。	居室には、利用者が使い慣れた寝具や家具が持ち込まれ、本人が暮らしやすいように配置されている。趣味の将棋盤や家族の写真、仏壇など、本人が大切にしているものを持ち込んでもらい、自分らしい部屋づくりを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	最低でも月に1回はモニタリングし、本人のできる事、分かる事を状態に合わせて残存機能を活かしてし生活を送れるように心掛けています。		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ひまわり 実践状況	実践状況	実践状況
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の朝礼で、理念を読み上げるようにしている。苑内の目の付く場所に掲示し、職員全員が同じ方向に向かいケアに携わっている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	避難訓練やお祭り際には地域の方々がたくさん来てくださる。また地元の小学生や園児の訪問交流がある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等でケアの実践をしてみることもある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議で頂いた意見をまとめ、職員間で回覧し、必要であれば会議を行いサービス向上に努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や相談がある時に関わって頂いている。問題があれば解決に向けて一緒に取り組んでいる。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会を実施している。拘束をしない為に何をどうすべきかを常に考える。また、拘束をしないことで起こりうるリスクを家族様と十分に話し合い理解を頂くようにしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を実施している。事業所内で虐待が起こらないように注意を払い防止に努める。ストレスを溜め込まないように指導している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ひまわり 実践状況	実践状況	実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を実施している。セミナー等の参加も声を掛けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族様と十分に話し合い理解、納得をして頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様や家族様が気軽に意見を言えるような環境づくりを心掛けている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	積極的に意見、提案ができるような環境づくりを心掛けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員ひとりひとりに目標を持ってもらい、達成する事の喜びやそれまでの過程を十分評価し、向上心をもって働いて頂くようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	苑内、外の研修の参加の充実と、資格取得に向けての支援をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の施設を見学させて頂き、良いところを吸収し、サービスの質向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ひまわり 実践状況	実践状況	実践状況
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様、家族様と十分に話し、思いや、不安を理解し少しでも早く信頼関係を築き安心して過ごして頂けるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様が体験してきた苦労を理解し、困っている事はないか、ニーズは何なのかを傾聴するようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	可能であれば、サービス開始前に本人様に会いに行き話をする機会を作ったり、要望を聞くようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の事をよく理解し、尊重し関わっていくようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には、利用者様の状況を伝えるようにし、定期的な便りや連絡は欠かさず行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人には面会に来て頂いたり、馴染みの場所にドライブを兼ねてお連れするようになっている。手紙や電話の支援も行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	関係性を把握しトラブルを未然に防ぎ、楽しく生活ができるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ひまわり 実践状況	実践状況	実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居されてからも手紙や電話を頂けたり、来苑して頂いたりして近況を聞けたりしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の気付きを大切に、職員間で情報の共有に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様や家族様から情報をいただき、生活歴や馴染みの暮らし方等を把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の気付きを職員間で共有しケアを行う。また利用者様の現状の把握に努めるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃の関わりの中で気付いた事、意見、希望を計画に反映している。必要であれば随時ケースカンファレンスを行うようにしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のファイルを用意し、記入している。毎日の気付きをファイルするようにし、職員間で共有するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	リハビリを必要としている方には施術師に相談し、福祉用具が必要な方には専門の方に相談にのっていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ひまわり 実践状況	実践状況	実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	周辺の情報などは地域の民生委員の方々から教えて頂く事が多い。こちらからも地域の行事にできるだけ参加するようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	馴染みの医師がおられる方は継続した医療が受けられるようにしている。また往診医は24時間の連携体制が取れている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調変化の早期発見に努め異常があれば速やかに担当医に報告相談し適切な治療が受けられるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	関係者や家族様と密に相談し情報交換しながらスムーズに安心して入退院できるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人様や家族様と十分に話し合い、対応できる最大限のケアについて説明し、担当医や協力してくれる病院等も踏まえて、安心して頂けるように努めていく。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応、事故発生後の対応マニュアルを作成し周知徹底している。また救命講習にも参加するようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の火災避難訓練と、年1回の水害訓練を実施している。春の訓練には地域の方々にも参加して頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ひまわり 実践状況	実践状況	実践状況
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格やプライバシーに配慮した声掛けを心掛け、実践できているか職員間で確認するようにしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	些細な出来事や、表情の変化を見逃さないように心掛けている。表現が難しい方は選択できるようなアプローチで反応をみるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課はあるが、無理強いせずペースに合わせた対応をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧を楽しんだり、洋服を自由に着て楽しまれたりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立や、行事食を一緒に考えたり、季節を感じて頂けるような食材を提供するようにしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量を記録し管理している。その方に合った食事形態での提供、食器の検討をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施している。口腔ケア用品やイソジンを使用している方もいらっしゃる。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ひまわり 実践状況	実践状況	実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、できるだけトイレで自立した排泄を支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日常の運動機会の確保や、食事、水分量にも注意している。必要であれば担当医に相談する。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	決められた日課はあるが、体調や希望に合わせてその都度対応している。柚湯、菖蒲湯を楽しんでいただく。介助はできるだけ同姓介助で実施している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状況に応じて休んで頂いている。歌やテレビをつけて眠られる習慣のある方は他者に迷惑にならない程度でお願いし、電気をつけて眠られる方には、眠られてから職員が消灯するようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	担当医の説明や、薬剤師からの情報をファイルし全員が把握できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯たたみや、花、野菜のお世話等日々の生活にやりがいを感じて頂いている。好きなカラオケをおこなったり、手芸を楽しませている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は散歩に出かけたり、買い物に行ったりし、外出支援を心掛けている。家族様の行事には必要であれば送迎し参加して頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ひまわり 実践状況	実践状況	実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は基本的には預かっているが、手元に金銭が無いと不安な方には家族様と相談し、本人に持って頂いている。外出時に必要であれば使用している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話や手紙支援を行っている。判断が難しい方は家族様に相談している。集中見舞いや年賀状を作成している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合った環境づくりをして楽しんで頂く。光をたくさん取りこんで明るい共有空間を作っている。静かな場所が好まれる方は落ち着いて過ごして頂けるように支援している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	本人の好きな場所に自由にいけるようにしている。テーブルを囲んで談笑されたり、一人でソファでテレビを見て過ごされたりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使いなれた家具や物を危険のない程度で使用していただくようにしている。写真を飾ったり、仏間を作られている方もいらっしゃる。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	最低でも月に1回はモニタリングし、本人のできる事、分かる事を状態に合わせて残存機能を活かしてし生活を送れるように心掛けています。		